

# 2025年3月期 第2四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社  
2024年11月6日

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

\*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

\*売上高は外部顧客向け。営業利益率は、外部顧客向け売上高に対する比率を記載しております。



ウシオ電機、代表取締役社長の朝日です。

本日ウェブサイトにて開示した決算資料にもとづき、2025年3月期 第2四半期決算の内容をご説明します。

## 2024年度 1H実績：増収減益

- ・前年同期比で増収減益も、利益は社内計画を上回り着地
- ・事業の取捨選択の取り組みによる効率化で収益性が改善
- ・取捨選択に伴う製品ラインアップ見直しにより、VI事業中心に評価損計上

## 2024年度 通期業績予想：上方修正

- ・効率化による収益性改善や円安効果を反映し、営業利益以下を上方修正
- ・将来に向けた先行投資は計画通り実施

## 新成長戦略の進捗

- ・ポートフォリオ変革や半導体アドバンスドパッケージ事業の取り組みは順調

本日、お伝えしたいことをご説明いたします。

第2四半期の業績は、増収減益となりました。露光装置において、下期に予定していた一部案件の前倒しがあったこと。また、新成長戦略の事業ポートフォリオ変革方針のもと、事業の取捨選択による効率化が進んだことで収益性が改善し、社内計画を上回る結果となりました。一方、ビジュアルイメージング事業を中心に、事業ポートフォリオ変革の一環として、製品ラインアップの見直しを進めており、資産の再評価に伴い評価損を計上しました。なお、事業の取捨選択については、各セグメント内の細かい単位で再評価を実施しています。

続いて、通期業績予想ですが、第2四半期の業績結果を踏まえ、営業利益以下の各利益を上方修正いたします。事業面では、期初計画から大きな変動は生じていないものの、収益性改善が進んでいることや為替レートが円安で推移していることを反映し修正します。なお、デジタルリソグラフィ装置などの先行投資は、期初計画通りに進めています。

また、今年5月に公表した新成長戦略の各施策は、おおむね順調に進んでおり、詳しくは後ほどご説明いたします。

まずは、第2四半期の業績についてご説明します。

(スライド4ページへ)

I. 2024年度 1H業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗

IV. 参考資料

## 売上高

856億円

前年同期比 : 6億円増 (+0.8%)

- 半導体市況悪化(IP事業)やハリウッドストライキ(VI事業)による影響も円安効果でIndustrial Process事業、Visual Imaging事業ともに横ばい

## 営業利益

42億円

前年同期比 : 6億円減 (▲14.1%)

- 新成長戦略に基づく先行投資拡大及びポートフォリオ変革の実行に伴う評価損の計上により減益

親会社株主に帰属する  
四半期純利益

23億円

前年同期比 : 19億円減 (▲45.9%)

- 【特別利益】 投資有価証券売却益 0億円 (2023年度 1H : 3億円)
- 【特別損失】 投資有価証券評価損 5億円 (2023年度 1H : 0億円)

業績サマリーです。

売上高は、半導体市況の低迷による設備投資の先送りやハリウッドストライキの影響により販売が減少しましたが、円安効果により増収となりました。

一方、営業利益は増収となったものの、新成長戦略に基づく先行投資の増加や、事業ポートフォリオ変革の実行に伴う評価損を計上したことで減益となりました。

四半期純利益は、営業利益の減益に加え、特別損益の増減により減益となりました。

続いて、営業利益の増減内容をステップチャートでご説明します。

(スライド6ページへ)

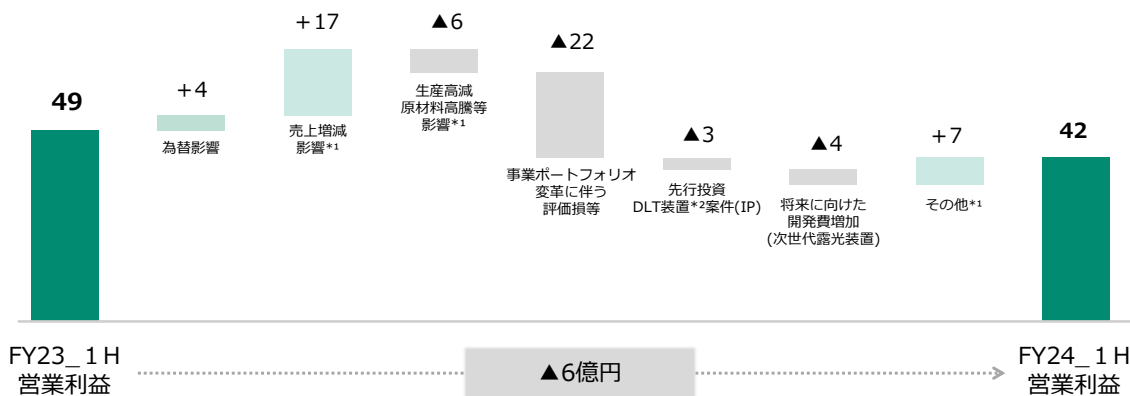
## 2024年度 1H : 財務ハイライト

USHIO

単位：億円	2023年度 1H実績	2024年度 1H実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	850	<b>856</b>	+6	+0.8%
営業利益	49	<b>42</b>	▲6	▲14.1%
営業利益率	5.8%	<b>5.0%</b>	▲0.9P	-
経常利益	62	<b>54</b>	▲8	▲13.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	42	<b>23</b>	▲19	▲45.9%
EPS (円)	36.92	<b>22.95</b>	▲13.97	▲37.8%
為替レート (円)	USD	140	+14	-
	EUR	153	+14	-

2024年度 1 H : 営業利益 増減分析(前年同期比)

単位：億円



IP = Industrial Process事業  
VI = Visual Imaging事業

LS = Life Science事業  
PHS = Photonics Solution事業

\*1 事業の取捨選択による収益性改善含む

\*2 DLT装置：アブライドマテリアルズ社との業務提携によるDLT(デジタルリソグラフィ技術)搭載のDI露光装置のこと。以降のページ同様

6億円減益の主な内訳です。

円安による為替効果や収益性改善の取り組みによる増益があったものの、事業ポートフォリオ変革に伴う評価損や先行投資など、将来につながる取り組みを拡大させたことで減益となりました。

続いて、セグメント別の業績をご説明します。

(スライド8ページへ)

## 2024年度 1H : セグメント別業績

USHIO

	単位：億円	2023年度 1H実績	2024年度 1H実績	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	377	<b>375</b>	▲2	▲0.5%
	営業利益 (営業利益率)	39 (10.4%)	<b>52</b> (13.9%)	+12 (+3.5P)	+32.8% -
Visual Imaging	売上高	388	<b>392</b>	+4	+1.1%
	営業利益 (営業利益率)	30 (7.7%)	<b>▲1</b> (▲0.3%)	▲31 (▲8.0P)	- -
Life Science	売上高	26	<b>30</b>	+3	+13.5%
	営業利益 (営業利益率)	▲11 (▲44.5%)	<b>▲5</b> (▲18.2%)	+6 (+26.3P)	- -
Photonics Solution	売上高	50	<b>51</b>	+0	+1.2%
	営業利益 (営業利益率)	▲7 (▲13.9%)	<b>▲2</b> (▲5.5%)	+4 (+8.4P)	- -
その他	売上高	6	<b>6</b>	+0	+1.4%
	営業利益 (営業利益率)	▲1 (▲19.5%)	<b>0</b> (5.3%)	+1 (+24.8P)	- -
連結合計	売上高	850	<b>856</b>	+6	+0.8%
	営業利益 (営業利益率)	49 (5.8%)	<b>42</b> (5.0%)	▲6 (▲0.9P)	▲14.1% -

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

7

## 2024年度 1 H : Industrial Process事業

単位：億円	2023年度 1 H実績	2024年度 1 H実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	377	375	▲2	▲0.5%
営業利益	39	52	+12	+32.8%
営業利益率	10.4%	13.9%	+3.5P	-
<b>サブセグメント別売上高</b>				
露光用ランプ	69	76	+7	+10.7% ③
OA用ランプ	27	31	+3	+12.7%
光学機器用ランプ	54	56	+1	+3.2%
光源事業合計	151	164	+12	+8.4%
露光装置	132	118	▲14	▲10.8% ①
光学装置その他	93	93	▲0	▲0.4% ②
光学装置事業合計	226	211	▲14	▲6.5%
Industrial Process事業合計	377	375	▲2	▲0.5%

## ■売上高：前年同期比 2億円減収

- 半導体市況の低迷による投資先送りの影響で、装置販売が減少 ①
- FPD向け装置販売が増加も、EUV関連のメンテナンス収入が減少 ②
- 設置済み装置の稼働が堅調及び円安効果もあり、販売が増加 ③

## ■営業利益：前年同期比 12億円増益

- 事業の取捨選択による効率化で収益性が改善
- 製品ミックスの改善

インダストリアルプロセス事業は、売上高は微減ですが、増益となりました。

露光装置において下期より一部販売が前倒しされたものの、汎用サーバーやパソコンなどの従来型の半導体市況が低調で販売が減少しました。光学装置その他に含まれるEUVマスク検査用光源のメンテナンス収入も減少しましたが、一方で、光配向装置などのフラットパネルディスプレイ向けの販売は増加。また、露光用ランプも稼働が堅調であり、円安効果もありました。

営業利益については、前期第2四半期は、一時的に利益率が悪化しましたが、今期第2四半期は効率化の取り組みによる収益性改善や、露光装置で利益率の高い案件が計上されるなどの製品ミックス改善により、増益となりました。



## 2024年度 1H : Visual Imaging事業

単位：億円	2023年度 1H実績	2024年度 1H実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	388	392	+4	+1.1%
営業利益	30	▲1	▲31	-
営業利益率	7.7%	▲0.3%	▲8.0P	-
<b>サブセグメント別売上高</b>				
プロジェクター用ランプ	65	57	▲8	▲12.3% ②
照明用ランプ	15	18	+2	+16.9%
光源事業合計	81	75	▲5	▲6.6%
シネマ	146	149	+2	+1.8% ③
一般映像	160	167	+6	+4.2% ①
映像装置事業合計	307	316	+9	+3.1%
Visual Imaging事業合計	388	392	+4	+1.1%

## ■売上高：前年同期比 4億円増収

- 前期2Qの大型案件減少により販売が減少も、円安効果で増収 ①
- 映画館の稼働低下により、シネマ向けランプ販売が減少 ②
- ストライキ影響でDCP\*販売は減少も、円安効果で増収 ③

\* DCP：デジタルシネマプロジェクター

## ■営業利益：前年同期比 31億円減益

- 事業ポートフォリオ変革に伴う評価損を計上  
(製品ラインアップ見直しによる再評価で棚卸資産評価損を計上)

ビジュアルイメージング事業は、売上高は微増ですが、減益となりました。

シネマ分野では、ハリウッドストライキの影響により映画館の稼働が低下し、シネマ向けランプの販売が減少しました。また、映画館での投資意欲が減退したため、デジタルシネマプロジェクターの販売も減少しました。

一般映像分野では、映像演出ニーズが底堅く推移したものの、前期第2四半期に大型案件があった影響で販売が減少しました。ただし、円安効果がこれらの販売減少をカバーし、売上高は微増となりました。

営業利益については、事業ポートフォリオ変革の一環として将来を見据えた製品ラインアップの見直しによる資産の再評価を行った結果、棚卸資産評価損を計上したため、減益となりました。

## 2024年度 1H : Life Science事業 /Photonics Solution事業

## Life Science事業

単位：億円	2023年度	2024年度	前年同期比	
	1H実績	1H実績	増減額	増減率
売上高	26	30	+3	+13.5%
営業利益	▲11	▲5	+6	-
営業利益率	▲44.5%	▲18.2%	+26.3P	-

## ■売上高：前年同期比 3億円増収

- ナトリウムランプの販売が増加

## ■営業利益：前年同期比 6億円増益

- 事業の取捨選択による効率化で収益性が改善

## Photonics Solution事業

単位：億円	2023年度	2024年度	前年同期比	
	1H実績	1H実績	増減額	増減率
売上高	50	51	+0	+1.2%
営業利益	▲7	▲2	+4	-
営業利益率	▲13.9%	▲5.5%	+8.4P	-

## ■売上高：前年同期比 0億円増収

- 半導体関連の販売が増加

## ■営業利益：前年同期比 4億円増益

- 事業の取捨選択による効率化で収益性が改善

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

ライフサイエンス事業は、増収増益となりました。

第1四半期に続き、植物育成向けナトリウムランプの販売が増加しました。また、取り組み案件の取捨選択により、将来の収益性や成長の確実性が高い案件に集中することで効率化を進め、利益率が改善しました。

フォトニクスソリューション事業は、売上高は微増で増益となりました。ライフサイエンス事業同様に、開発案件の取捨選択による絞り込みで効率化を進め、利益率が改善しました。

続いて、通期業績予想についてご説明します。

(スライド12ページへ)

I. 2024年度 1H業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗

IV. 参考資料

### 営業利益以下の各利益を上方修正

- ・新成長戦略の事業ポートフォリオ変革方針に伴う事業の取捨選択の取り組みで収益性が改善
- ・円安による為替効果

売上高

- **1,750億円（前回予想から変更なし）**  
- 円安も、Visual Imaging事業の事業環境変化を加味し変更なし

営業利益

- **75億円（前回予想から25億円上方修正）**  
- 収益性の改善及び円安効果を反映し上方修正

当期純利益

- **60億円（前回予想から15億円上方修正）**  
- 営業利益の上方修正に伴い上方修正

為替前提

- **3Q以降の為替レート USD : 145円、EUR : 155円**

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 12

通期業績予想ですが、冒頭でも触れた通り、全体的に収益性の改善が進んでいること、また為替レートが期初計画に対し円安で推移していることなどを反映し、営業利益以下の各利益を上方修正します。

詳細については、この後セグメント別に説明しますが、営業利益は25億円の上方修正、当期純利益は15億円の上方修正となります。修正後の各数値については13ページをご覧ください。

続いて、セグメント別の修正内容についてご説明します。

（スライド14ページへ）

2024年度 通期業績予想：修正内容及び財務ハイライト

USHIO

単位：億円		今回	前回 2024.5.14	差異	2023年度 通期	増減額	増減率
売上高		1,750	1,750	-	1,794	▲44	▲2.5%
営業利益		75	50	+25	129	▲54	▲42.2%
営業利益率		4.3%	2.9%	+1.4P	7.2%	▲2.9P	-
経常利益		95	65	+30	160	▲65	▲41.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益		60	45	+15	107	▲47	▲44.4%
EPS (円)		62.39	46.79	+15.60	97.22	▲34.83	▲35.8%
ROE (%)		2.7%	2.0%	+0.7P	4.5%	▲1.8P	-
年間配当 (円)		70	70	-	50	+20	-
為替レート (円) *1	USD	150	145	+5	144	+6	-
	EUR	161	155	+6	156	+5	-

\*1 2Q累計期間為替レート実績：USD：154円、EUR：166円、3Q以降の為替レート前提：USD：145円、EUR：155円  
(参考) 為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.2億円

## 2024年度 通期業績予想：セグメント別業績予想 修正内容

単位：億円		今回	前回 2024.5.14	差異	主な修正内容
Industrial Process	売上高	800	790	+10	● 円安効果及び収益性改善を反映し、売上・利益ともに上方修正
	営業利益 (営業利益率)	75 (9.4%)	35 (4.4%)	+40 (+4.9P)	
Visual Imaging	売上高	780	780	-	● 円安効果があるものの、一般映像で案件の先送りや投資意欲の減退の影響を見込み、売上は維持 ● 利益は、事業ポートフォリオ変革に伴う評価損の計上により、下方修正
	営業利益 (営業利益率)	20 (2.6%)	45 (5.8%)	▲25 (▲3.2P)	
Life Science	売上高	55	50	+5	● ナトリウムランプの販売増加及び収益性改善を反映し、売上・利益ともに上方修正
	営業利益 (営業利益率)	▲14 (▲25.5%)	▲20 (▲40.0%)	+6 (+14.5P)	
Photonics Solution	売上高	100	115	▲15	● 半導体関連の販売が計画を下回る見込みのため、売上は下方修正 ● 利益は、収益性改善を反映し、上方修正
	営業利益 (営業利益率)	▲6 (▲6.0%)	▲10 (▲8.7%)	+4 (+2.7P)	
その他	売上高	15	15	-	
	営業利益 (営業利益率)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	-	
連結合計	売上高	1,750	1,750	-	
	営業利益 (営業利益率)	75 (4.3%)	50 (2.9%)	+25 (+1.4P)	

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 14

インダストリアルプロセス事業は、円安効果および事業の取捨選択による効率化での収益性改善を反映し、売上高を10億円、営業利益を40億円上方修正します。

ビジュアルイメージング事業は、一般映像における案件の先送りや投資意欲の減退影響などを踏まえ、売上高は据え置きます。一方、営業利益は、上期に発生した事業ポートフォリオ変革に伴う一時的な評価損計上を反映し、25億円下方修正します。

ライフサイエンス事業は、ナトリウムランプの販売増加や事業の取捨選択による効果を反映し、売上高を5億円、営業利益を6億円上方修正します。

フォトニクスソリューション事業は、半導体関連の販売が当初計画を下回る見込みとなり、売上高を15億円下方修正します。一方で、事業の取捨選択による効果を反映し、営業利益は4億円上方修正します。

続いて、修正後の各セグメントの下期見通しについてご説明します。

(スライド15ページへ)

## 2024年度 通期業績予想：1H進捗率(セグメント別)

単位：億円		2024年度 通期予想 (修正後)	2024年度 1H実績	通期予想に 対する 1H進捗率	2Hの見通し
Industrial Process	売上高	800	<b>375</b>	47.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>露光装置販売が増加の見込み</li> <li>将来に向けた先行投資*が増加の見込み *主に、DLT装置案件及び次世代露光装置</li> </ul>
	営業利益 (営業利益率)	75 (9.4%)	<b>52</b> (13.9%)	69.9% -	
Visual Imaging	売上高	780	<b>392</b>	50.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>シネマと一般映像ともに、売上は上期並みで推移見込み</li> <li>利益は、上期計上の評価損が減少</li> </ul>
	営業利益 (営業利益率)	20 (2.6%)	<b>▲1</b> (▲0.3%)	-	
Life Science	売上高	55	<b>30</b>	55.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナトリウムランプ販売が減少の見込み</li> </ul>
	営業利益 (営業利益率)	▲14 (▲25.5%)	<b>▲5</b> (▲18.2%)	39.6% -	
Photonics Solution	売上高	100	<b>51</b>	51.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上・利益ともに上期並みで推移見込み</li> </ul>
	営業利益 (営業利益率)	▲6 (▲6.0%)	<b>▲2</b> (▲5.5%)	46.9% -	
その他	売上高	15	<b>6</b>	41.7%	
	営業利益 (営業利益率)	0 (0.0%)	<b>0</b> (5.3%)	-	
連結合計	売上高	1,750	<b>856</b>	48.9%	
	営業利益 (営業利益率)	75 (4.3%)	<b>42</b> (5.0%)	56.9% -	

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 15

下期は、インダストリアルプロセス事業の変動による影響が大きく、上期に対し全体で増収も減益となる見込みです。

インダストリアルプロセス事業では、露光装置の販売が増加し、上期より増収となる見込みです。一方、利益面では、デジタルリソグラフィ装置関連を中心に先行投資が増加すること、また上期の利益率の高い露光装置の反動などにより、収益性が一時的に低下する見込みです。

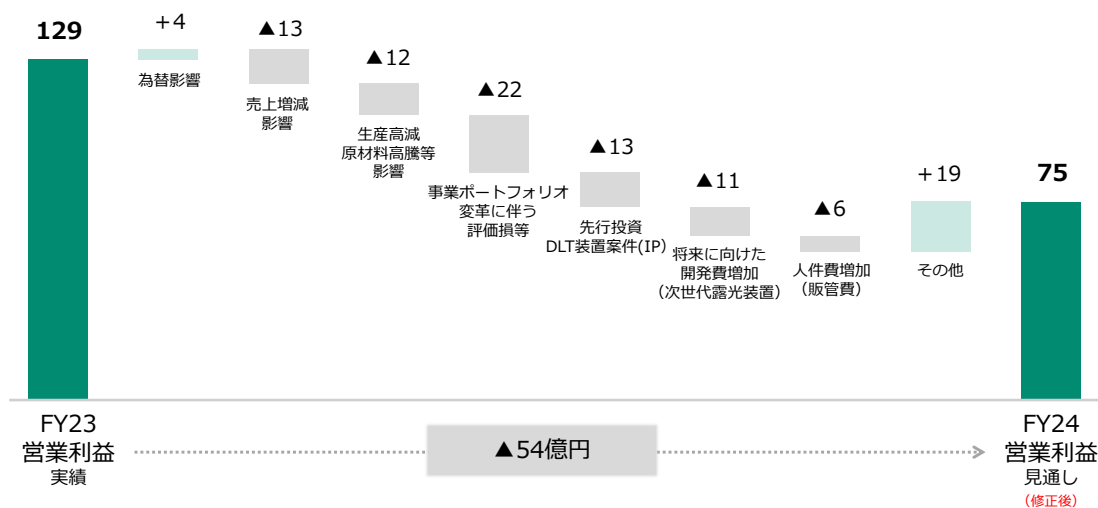
ビジュアルイメージング事業は、一般映像分野で投資意欲の減退などの影響が見込まれるものの、売上は上期から横ばいとなる見込みです。利益は、上期の評価損が減少することで増益となる見込みです。

ライフサイエンス事業およびフォトニクスソリューション事業は、記載の通りです。

なお、修正後の最新のセグメント別事業環境については、17～19ページに掲載していますので、後ほどご覧いただければと思います。

(スライド20ページへ)

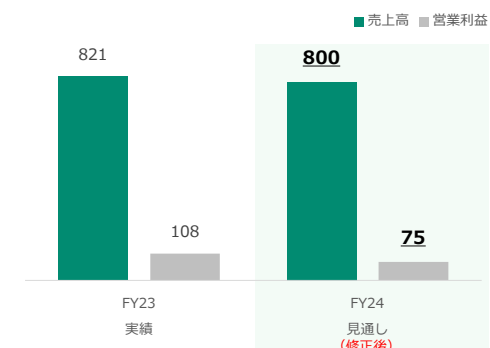
2024年度 通期業績予想：営業利益増減分析（前年同期比）



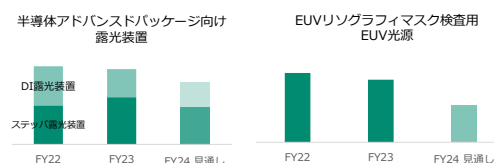


## 2024年度 通期業績予想 : Industrial Process事業

下線が前回からの変更箇所



【参考情報 (売上高推移)】



## ■ 事業環境想定

生成AI関連は市場成長も、半導体市場(全般)の需要回復は不透明

- 半導体市場(全般)の回復は、更に遅れる見込み
- 生成AI関連の半導体アドバンスパッケージ市場は成長
- FPD市場は、需要の底は脱するも低調な需要の継続を見込む

■ 売上高 : 前年同期比 21億円減収

- 露光用ランプは、徐々に稼働が回復し増収を見込む
- 露光装置は、投資先送りの影響で減収を見込む
- EUVマスク検査用光源は、メンテナンス収入の減少を見込む

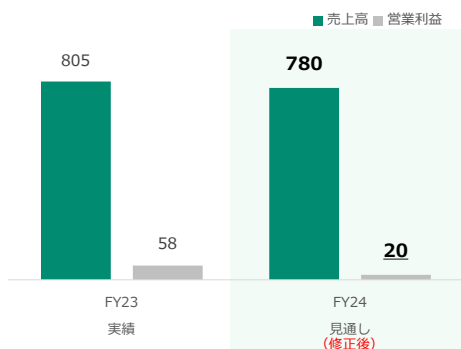
■ 営業利益 : 前年同期比 33億円減益

- 将来の成長に必要な先行投資(開発投資)を拡大  
→ デジタルリソグラフィ装置\*を含む次世代露光装置、EUV光源等
- 露光装置で一時的な生産高の減少に伴う稼働率低下による損失を見込む  
一方で、事業の取捨選択による効率化で収益性は改善を見込む

\*アプライドマテリアルズ社との業務提携によるDLT(デジタルリソグラフィ技術)搭載のDI露光装置のこと

2024年度 通期業績予想 : Visual Imaging事業

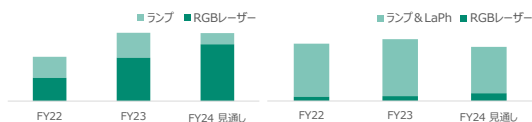
下線が前回からの変更箇所



【参考情報 (台数推移)】

デジタルシネマプロジェクター (DCP)

一般映像向けプロジェクター



■ 事業環境想定

需要は堅調も、中国経済やストライキ影響を注視

シネマ市場

- ハリウッドストライキの影響で映画館の一時的な稼働減を想定
- DCP置き換えニーズはあるものの、投資意欲は低調な見込み

一般映像市場

- 大規模演出や最先端の映像演出ニーズの高まりにより需要は堅調も、中国経済の影響は注視

■ 売上高 : 前年同期比 25億円減収

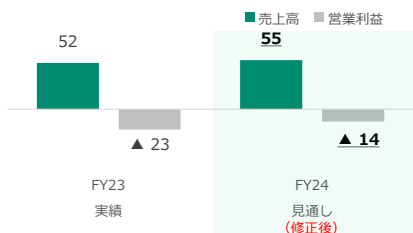
- シネマ(映像装置)は、設備投資意欲の減退により減収を見込む
- 一般映像機器は、堅調な需要により増収を見込む
- プロジェクター用ランプは、映画館の稼働減少影響や固体光源化で減収を見込む

■ 営業利益 : 前年同期比 38億円減益

- 減収に伴う減益
- プロジェクター用ランプで原材料高による影響を見込む
- 事業ポートフォリオ変革に伴う評価損を計上

下線が前回からの変更箇所

Life Science事業



■ 事業環境想定

メディカル機器等で安定的な需要が継続

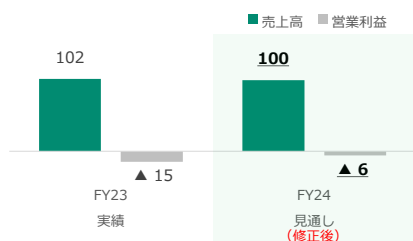
■ 売上高 : 前年同期比 **2 億円増収**

- 環境衛生向け及びメディカル機器は横ばい。ナトリウムランプの販売増加を見込む

■ 営業利益 : 前年同期比 **9 億円増益**

- 増収に加え、事業の取捨選択による効率化で収益性改善を見込む

Photonics Solution事業



■ 事業環境想定

産業用途でエネルギー効率向上ニーズ等によるフォトニクス需要が継続

■ 売上高 : 前年同期比 **2 億円減収**

- 半導体関連で増加も、その他用途で販売減少を見込む

■ 営業利益 : 前年同期比 **9 億円増益**

- 事業の取捨選択による効率化で収益性改善を見込む

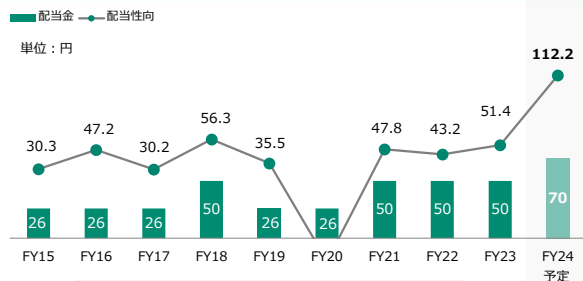
1株当たり  
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

FY24~FY26: 下限配当70円/年を設定

2024年度 **70円/年** (増配予定)



自社株投資

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

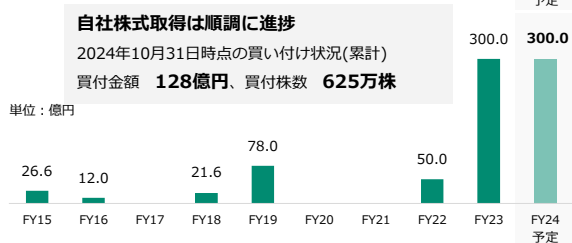
FY24~FY26: 累計500~600億円の自社株投資を実施予定

2024年5月14日リリース

取得期間：2024年5月24日～2025年4月30日

買付予定金額：**300億円(上限)**

買付予定株数：**2,000万株(上限)**



続いて、株主還元についてご説明します。

今年度の配当は、期初計画から変更なく1株当たり70円とする予定です。新成長戦略の方針に則り、20円の増配となります。

また、自社株投資は、上限300億円の買い付けに対し、10月31日時点で累計128億円、625万株となり、進捗率は約43%と順調です。詳しくは、11月5日付けのリリースをご確認ください。

(スライド22ページへ)

I. 2024年度 1H業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗

IV. 参考資料



Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 22

最後に、5月に公表した新成長戦略の進捗状況についてご説明します。

まず、事業ポートフォリオ変革の全体イメージについて改めてご説明します。今回の変革は、Phase Iの最終年度である2026年度までに目途をつけること。そして、Phase IIで変革実行の成果と半導体分野を中心とした事業成長により、収益率を向上させ、ROEもさらに向上していくフェーズへと着実に移行させていきます。

そのために、現在は、事業の再評価による取捨選択を各セグメントにおいて細かい単位で進めており、引き続き、収益率向上への取り組みを着実に進めています。

## 事業戦略：事業ポートフォリオ変革の進捗状況

新成長戦略Phase I (FY24~26)での変革の実行及び完遂を目指し、各事業ともに計画通り進展

Industrial Process事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成長分野へ人的リソース転換実行中</li> <li>● EUV事業は、早期に事業の方向性を判断すべく検証中。検査・分析用途(半導体)の事業機会を確認中</li> <li>● 半導体アドバンスドパッケージ市場に向けた取り組みは計画通り進展(詳細は24ページ)</li> <li>● 半導体市況低迷が長引くことによる中期的見通しへの影響を精査中</li> </ul>
Visual Imaging事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安定収益事業に向け、抜本的なコスト構造見直しを実行中</li> <li>● 付加価値の高いAVシステムコンサルティング事業の拡大に向けた取り組み実施中(拠点の増設等)</li> <li>● サービスメンテナンス収入割合の拡大に向けた取り組み実施中</li> </ul>
Life Science事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新規事業案件の再評価により、半数以上の案件で収束等を検討。モニタリングを強化</li> </ul>
Photonics Solution事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発アイテム及び人的リソースの見直しを実行中</li> </ul>

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 23

各セグメント別での進捗は記載の通りですが、ポイントのみご説明させていただきます。

インダストリアルプロセス事業は、半導体アドバンスドパッケージ事業の成長拡大に向け、順調に推移しています。詳しくは次のページでご説明します。一方、EUV事業は、最新の市場環境や技術動向の精査を進めており、検査・分析用途での事業機会も含め、早期に事業の方向性を判断すべく検証中です。また、半導体市況低迷が長引くことによる中期的な見通しへの影響を精査しています。

ビジュアルイメージング事業は、将来の確実な収益構造改善を実現すべく、細かな事業単位まで落とし込み、成長性の再評価と抜本的なコスト構造の見直しを実施しています。

ライフサイエンス事業は、新規事業案件の再評価を実施し、より確実性の高い案件への絞り込みを行いました。その結果、約7割の案件について大幅な見直しを行いました。引き続き、各案件のモニタリングを継続していきます。

フォトニクスソリューション事業は、現在、あらゆる選択肢をもって、将来の収益改善に向け、見直しを進めています。

これらの取り組み成果の一部が、今期の通期業績予想の上方修正につながったものと考えています。

### ● 市況環境の最新認識

- 生成AI関連の半導体需要は高水準継続。半導体パッケージ基板の大型化・パネル化に向けた動きも具現化しつつあり、2027年以降の量産に向け投資案件の引き合いが増加
- 一方、汎用サーバー、PCなどの従来型半導体に関連するパッケージ基板の投資や稼働は引き続き低調。需要回復は、さらに遅れる見通し

### ● 当社の取り組み状況(最新)

- 新たなデジタルリソグラフィ装置(以下、DLT装置)の次期(2025年度)業績貢献に向け順調に進展
  - 多くのお客様が関心を示し評価中
  - DLT装置による基板の大型化及びダイのズレ補正などの課題改善対応に高い関心あり
  - 生産体制の準備はスケジュール通り進捗
- パネル化やガラスコア材などの技術トレンド変化に対応する次世代露光装置(ステッパ及びDI)の開発を加速中

最後に、半導体アドバンスドパッケージ市場の取り組み状況についてご説明いたします。

まず、最新の市況環境認識ですが、先ほども触れた通り、従来型の半導体市況は低調が続く、回復は想定よりさらに遅れる見込みです。一方、生成AIに関連した半導体需要は高水準が続いており、早期にこの需要を取り込むべく、取り組みを強化しています。

この需要を確実に取り込むためにも、新たな製品ラインアップに加えるデジタルリソグラフィ装置が欠かせません。来期2025年度後半からの業績貢献計画に変更はなく、順調に進展しています。現在、私たちが想定していた以上に多くのお客様にて評価が実施されています。今後の基板の大型化やチップレット化によるダイのズレ補正などの課題に対し、デジタルリソグラフィ装置の特徴に高い関心を示していただいております、評価も順調に進むものと考えています。また、生産体制の準備もスケジュール通り進捗しています。

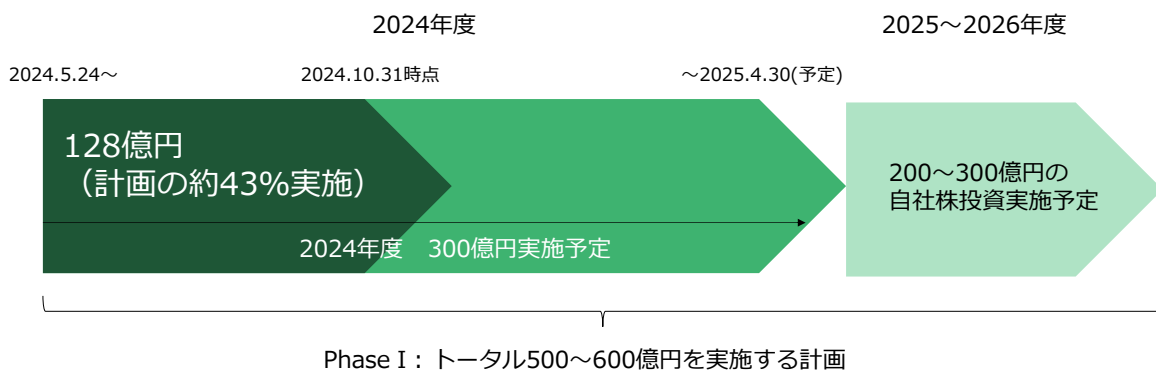
デジタルリソグラフィ装置に加え、従来の露光装置においても、今後の技術トレンドに対応すべく、解像度の向上など開発を強化しています。半導体アドバンスドパッケージ市場でのプレゼンス拡大を確実なものとするべく、今後も取り組みを進めてまいります。

最後に財務戦略の進捗ですが、自社株投資の進捗状況を25ページに記載しています。先ほどの株主還元の説明と重複するため、割愛させていただきますので、後ほどご確認いただければと思います。

本日の私からの説明は以上となります。



● 自社株投資



- I. 2024年度 1H業績概要
- II. 2024年度 通期業績予想
- III. 新成長戦略の進捗
- IV. 参考資料

## 事業セグメントと主な製品

USHIO

事業セグメント	主要事業・製品	製品例
<b>Industrial Process</b>	<p><b>光源：</b> 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他</p> <p><b>装置：</b> 露光装置、キュア装置、EUVマスク検査用光源、保守メンテナンスサービス他</p>	 露光用ランプ  OA用ランプ  ステッパ露光装置  ダイレクトイメージング露光装置  EUVマスク検査用EUV光源 <small>(提供：TNO)</small>
<b>Visual Imaging</b>	<p><b>光源：</b> シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他</p> <p><b>装置：</b> デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他</p>	 シネマ用ランプ  データプロジェクター用ランプ  デジタルシネマプロジェクター  一般映像用プロジェクター  ディスプレイLEDウォール  映像周辺機器
<b>Life Science</b>	<p><b>光源：</b>「Care222<sup>®</sup>」搭載製品他</p> <p><b>装置：</b>紫外線治療機器他</p>	 抗ウイルス・除菌技術「Care222 <sup>®</sup> 」搭載製品  紫外線治療機器「セラビームシリーズ」
<b>Photonics Solution</b>	<p><b>光源：</b>固体光源</p>	 固体光源 (LD/LED)  レーザーモジュール

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 27

## 四半期推移《損益》

USHIO

単位：億円	2023年度				2024年度		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率
<b>売上高</b>	392	457	475	469	375	481	+23	+5.2%
<b>営業利益</b>	20	29	52	27	3	39	+10	+34.8%
<b>営業利益率</b>	5.2%	6.4%	11.0%	5.9%	0.9%	8.2%	+1.8P	-
<b>経常利益</b>	28	34	63	34	14	39	+5	+15.1%
親会社株主に帰属する <b>四半期純利益</b>	17	24	44	20	2	20	▲4	▲18.6%
<b>EPS(円)</b>	15.36	21.65	40.72	20.06	2.92	20.26	▲1.39	▲6.4%
<b>為替レート (円)</b>	USD	136	144	149	147	155	+9	-
	EUR	148	158	159	160	167	+8	-

## 四半期推移《セグメント別損益》

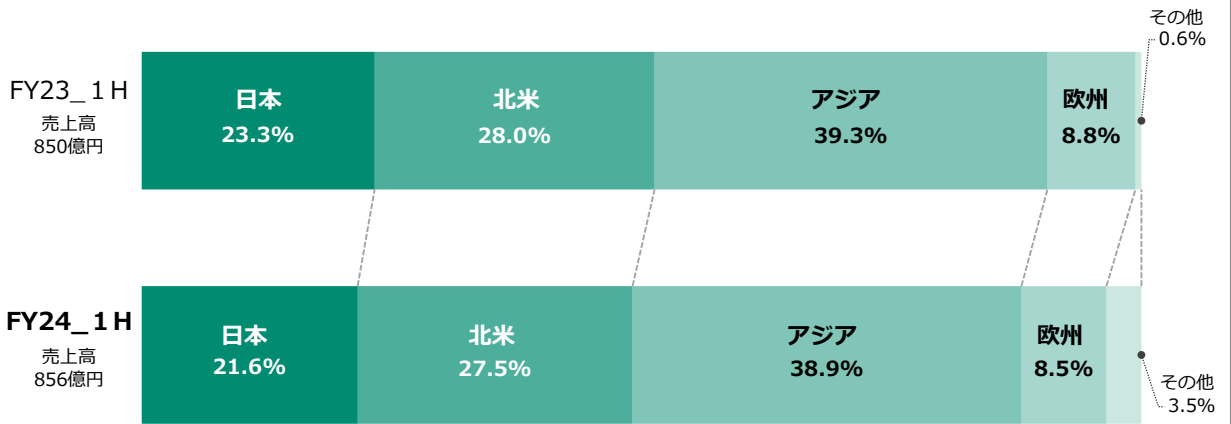
	単位：億円	2023年度				2024年度		前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	174	203	225	217	155	220	+16	+8.3%
	営業利益	22	17	40	28	10	41	+24	+146.5%
	営業利益率	12.9%	8.4%	18.1%	13.1%	6.7%	19.1%	+10.7P	-
Visual Imaging	売上高	176	212	203	212	175	216	+4	+2.2%
	営業利益	6	23	15	12	▲4	3	▲20	-
	営業利益率	3.5%	11.2%	7.8%	6.1%	▲2.7%	1.6%	▲9.6P	-
Life Science	売上高	13	13	13	11	15	15	+2	+15.8%
	営業利益	▲4	▲7	▲4	▲6	▲1	▲3	+3	-
	営業利益率	▲32.7%	▲57.1%	▲36.1%	▲54.6%	▲11.1%	▲25.4%	+31.6P	-
Photonics Solution	売上高	25	25	28	23	25	25	+0	+0.5%
	営業利益	▲3	▲3	▲1	▲6	▲0	▲2	+1	-
	営業利益率	▲12.9%	▲14.9%	▲5.0%	▲28.9%	▲2.3%	▲8.6%	+6.2P	-
その他	売上高	2	3	3	3	2	3	+0	+0.8%
	営業利益	▲0	▲0	1	0	0	0	+0	-
	営業利益率	▲22.9%	▲16.7%	51.7%	23.5%	1.1%	8.8%	+25.6P	-
連結合計	売上高	392	457	475	469	375	481	+23	+5.2%
	営業利益	20	29	52	27	3	39	+10	+34.8%
	営業利益率	5.2%	6.4%	11.0%	5.9%	0.9%	8.2%	+1.8P	-

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

29

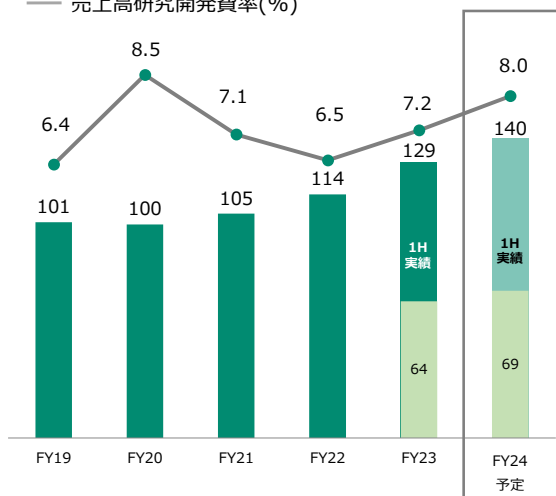
地域別売上高比率

USHIO

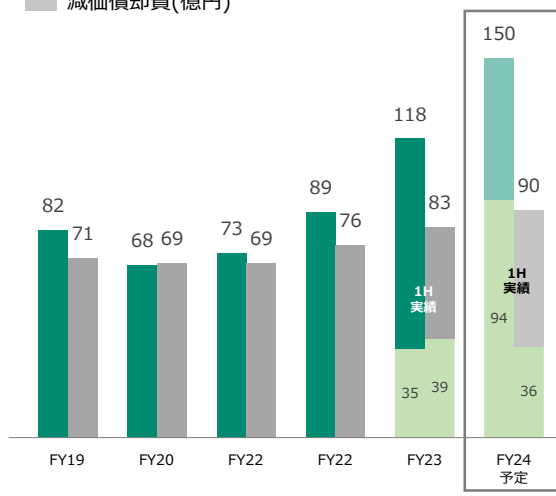


研究開発費／設備投資額・減価償却費

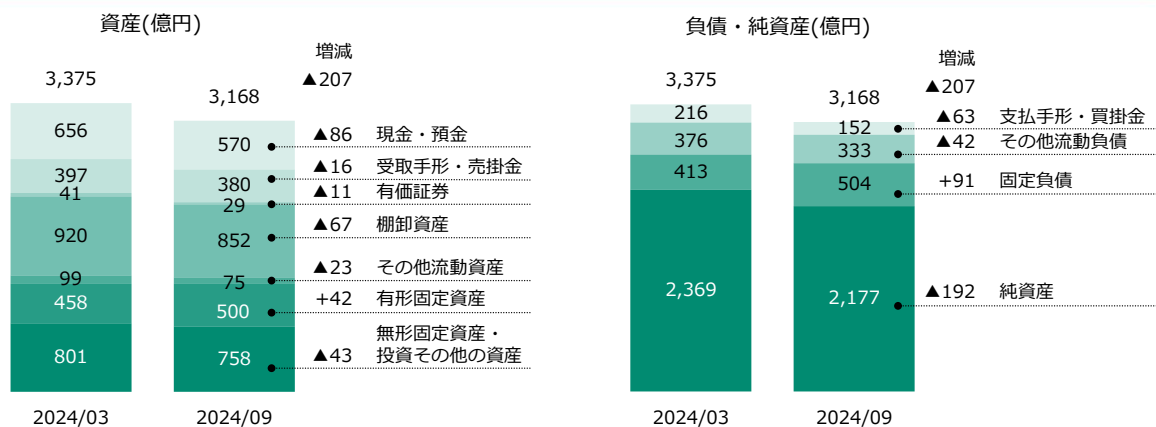
■ 研究開発費(億円)  
— 売上高研究開発費率(%)



■ 設備投資額(億円)  
■ 減価償却費(億円)



貸借対照表



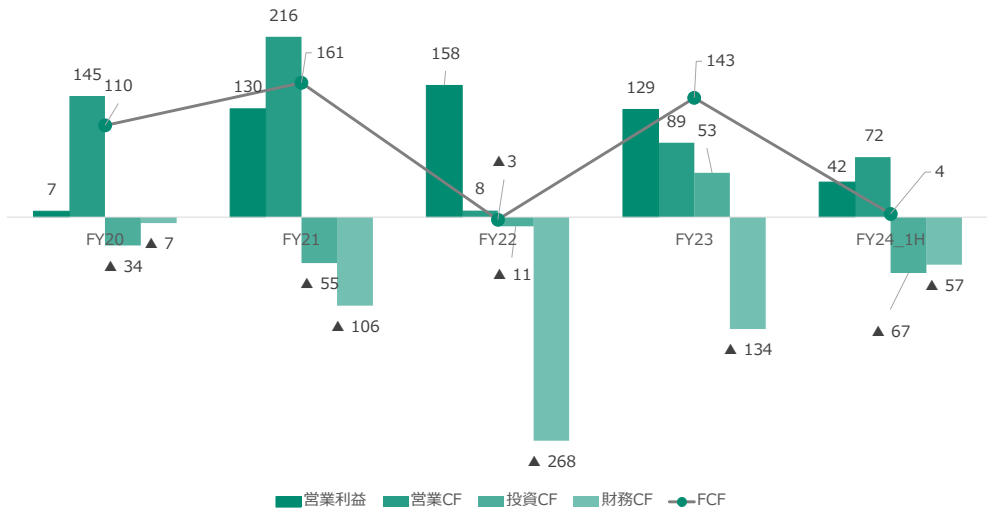
回転月数(ヶ月)	2024/03	2024/09
売上債権	2.6	2.7
棚卸資産	5.9	6.2
CCC	6.9	7.6

自己資本比率(%)	2024/03	2024/09
	70.2	68.7



# キャッシュフロー推移

単位：億円



AI	Artificial Intelligence	人工知能
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
DLT	Digital Lithography Technology	デジタルリソグラフィ技術
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
半導体アドバンスドパッケージ		チップレットをはじめとする半導体の2xD、3D化に対応する最先端のパッケージ分野

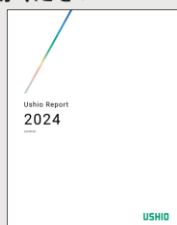
## IRサイト及びIRメール配信サービスのお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」では、様々なIR情報を掲載しております。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しております。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

🖥️ オフィシャルWebサイトもご活用ください



投資家情報



統合報告書(Ushio Report 2024)



サステナビリティ



IRメール  
配信サービス  
ご登録はこちら



「大和インターネットIR表彰 2023」  
「優秀賞」受賞

### <免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

**ウシオ電機株式会社**

**IR室**

(03) 5657-1007

[ir@ushio.co.jp](mailto:ir@ushio.co.jp)

<http://www.ushio.co.jp/jp/ir>